糸島のできごと

自分の中の差別意識と向き合う

「同和問題啓発強調月間」講演会

市人権センターで7月4日、福岡市人権学習啓発講師の吉岡綾さんを招き、中央講演会を開催。約２００人の市民が参加しました。

吉岡さんは人懐っこい性格の若い女性。明るい口調で、自分の生い立ちや家族のこと、今でも見る差別体験の悪夢、そして、そのとき自分が感じ、考えたことなどについて語りました。

会場の参加者は、他人からの、そして自分の中の差別意識と向き合う吉岡さんの話に、人として生きることのたいせつさを学んでいました。

吉岡さんの話に人権のたいせつさを学び取る参加者たち

赤米アート制作（田植え）開始

糸島まるごと農学校

日本最大の赤米生産地・二丈地区で7月4日、田んぼに赤米を植えて絵や文字を書く「赤米アート」の制作が始まりました。

この日は雨の中を、親子連れや九大生、アピキュウ（アグリ・プロジェクト・イン・九州）、西日本短大生など50人が参加。完成時の配色を計画し、設計図どおりの田植えを行いました。

田んぼに描かれる絵柄は、南風小学校の高尾倫君（2年生）の作品。秋、稲穂が実って緑と赤に浮かび上がるアートが、楽しみです。

赤米と普通のイネを設計図どおりに植える参加者たち

魚釣り&ライフセービング教室

ドリームトレイサー２０１０

ドリームトレイサー２０１０の第２回目の講座を7月3日、福吉漁港とその周辺で開催し、雨の中、子どもたちは元気に活動しました。

午前中は魚釣り。魚釣りは初めてという子もいましたが、小アジなどおよそ２００匹が釣れました。午後からは、海に入らずに、おぼれている人を助ける方法などを学習しました。

また、班対抗によるシーフラッグやボードを使ったリレーなどを行い、子どもたちは、楽しく充実した一日を過ごしていました。

おぼれている人を助ける方法などを学習

糸島の自然を学び、守る

はまぼう夢まつりが開催

今年も泉川に、ハマボウの花が咲きました。川沿いの糸島市し尿処理センターで7月11日、第13回はまぼう夢まつりが開催されました。

この催しは、糸島の自然の素晴らしさを学び、地域交流をしながら、たいせつな自然を次代に引き継ごうと、毎年開催されています。

この日は、南さつま市にある九州最大のハマボウ群落の紹介や、九州大学の松隈明彦教授の記念講演が行われ、最後にワンツーフラのフラダンスや糸農太鼓が披露されました。

ハマボウの花を髪飾りに、フラダンスが披露されました

願いを込めてイルミネーション

糸島に流れる天の川

7月7日の夜、丸田池公園広場で糸島市青年会議所主催の「糸島10万人の夢イルミネーション」の点灯式が行われました。

公園の中央に位置する橋にはたくさんのイルミネーションや市内の園児たちが作った短冊が飾り付けられ、夕日が沈み暗くなり始めた19時過ぎに一斉にライトアップされました。

会場には多くの市民が訪れ、子どもたちが短冊に書いた願い事を読んだり、記念撮影をする姿があちこちで見られました。

子どもたちの願いを読みながら、イルミネーションをくぐる来場者たち

勇壮な夏祭り、野北祇園

お潮井取り

志摩野北の須賀神社で7月13日、勇壮なお潮井取りが行われました。

若者が赤獅子・青獅子を打ち振り、締め込み姿で「オイサッ、オイサッ」の掛け声で、神社から海岸まで練り歩きます。祭りの起源は古く、約４００年前。五穀豊穣と家内安全、夏の健康祈願のためとも言い伝えられます。

境内には出店が並び、見物客が訪れ、祭りの雰囲気を盛り上げます。初夏の風物詩、野北祇園が終わると本格的な夏が訪れます。

獅子を振ってもらうと子どもが健康に育つという

ITOSHIMA INCIDENTS